

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を最大限に伸ばす、多様な学びを可能にする教育をめざします。
○人間性の涵養を図ります。
○「自立心」「目標（志）」「考える力」「聴く力」「伝える力」を育てます。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と学びの深化
- (1)学習指導要領を踏まえ創意工夫した教育活動の充実
 - ア 学習指導要領の確実な実施とともに適切な教育課程の編成・実施を行う。
 - イ 主体的・対話的深い学びの実現に向け教科を超えて組織的な授業改善を図る。
- (2)自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進
 - ア 学校設定科目等の創意工夫によりアドバンス教育コースの充実を図る。
 - イ 大教大連携事業への参加促進を図る。
 - ウ 姉妹校であるオーストラリア、ニューサウスウェールズ州シドニー、[ジョージ リバー グラマー（GRG）校] との交流等により外国語教育の充実を図る。
 - ※ 国公立大現役合格率 25%以上を維持 ⇒ (R5: 83 人 R6:76 人 R7 : 75 人)
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）「生徒の興味・関心・適正に応じた情報を提供し、将来の進路や生き方について考える機会をつくっている。」肯定的回答率 90%以上を維持 ⇒ R7:95.3%
- 2 豊かな心、たくましい人間性の涵養と安全安心な魅力ある学校づくり
- 「時を守り、場をきよめ、礼を正す」
- (1)規範意識の醸成を図り規律ある教育環境を確保する。
 - ア メリハリのある教育活動を実施する。
 - イ 交通安全マナーの向上を図る。
- (2) 安全安心な学校生活の推進
 - ア 人権・多様性を尊重する教育の推進を図る。
 - イ 防災・防犯・感染症等の対応を含め学校教育活動全体を通した安全管理
 - ウ 個々の生徒に寄り添った教育相談体制を構築する。
 - エ 校内の環境整備及び設備等を充実することにより生徒の学習活動の活性化を図る。
- (3) 生徒の自主的活動の支援及び生徒の可能性を伸ばす教育の実践
 - ア 柔軟な学校行事・生徒会活動の充実を図る。
 - イ 活発な部活動を通して人間力の向上をめざす。
- 3 学校力の向上
- (1)広報戦略の構築による学校教育活動の効果的かつ積極的な情報発信
- (2)「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。
- (3)働き方改革の推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和8年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R7年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 学習指導要領を踏まえ創意工夫した教育活動の充実	ア 教科横断的に教職員全員が学習指導要領を理解し授業に取り組む。	ア・国公立大現役合格率 25%以上を維持 [27.7%] ・学校教育自己診断（生徒）「生徒の興味・関心・適正に応じた情報を提供し、将来の進路や生き方について考える機会をつくっている。」肯定的回答率 90%以上を維持 [90.1%]	
		イ 教職員間で積極的に互見授業を行い、学校全体でよりよい授業改善を行う。	イ・各教員が月 1 回程度の授業見学を行い、授業改善について学期に 1 回は教科で話し合う機会を持つ。【新】	
		ウ 全教科及び探究活動において教科担当、担任が情報リテラシーについて生徒に情報や情報技術について適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。	ウ・学期に 1 回は各学年・教科で情報リテラシーについて話し合う機会が持てたか。【新】	
	(2) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進	ア アドバンス教育コースの学校設定科目の魅力化を図る。	ア・教育課程委員会、総合的な探究委員会等、教科を超えて「アドバンス教育コース」の学校設定科目の魅力化を図るとともに探究活動の具体化・見える化をおこない、コース選択する生徒を 20 名以上に増やす。【13 名】	
		イ 学校として統一した学習支援クラウドサービスの活用により各学年・教科からこまめに周知案内して課外学習時間の習慣をつけさせる。	イ・学習支援クラウドサービス活用による課外学習時間平均 2 時間 15 分以上 [2 時間 25 分]	
		ウ 姉妹校（シドニー、ジョージ リバークラマー校）訪問（7 月）及び姉妹校の来訪（10 月）により生の英語に触れる機会を多くする。	ウ・生の英語に触れる機会を持ち、生徒が積極的に言語活動に取り組めたか。[GRG 校教員への聴き取りにより成果が図られたか。] 【新】	

2 豊かな心 たくましい人間力 育成と安全・安心な魅力ある学校づくり	時を守り、場をきよめ、礼を正す (1) 規範意識の醸成を図り規律ある教育環境を確保する (2) 安全安心な学校生活の推進 (3) 生徒の自主的活動の支援及び生徒の可能性を伸ばす教育の実践	ア 生徒に「いつ」「どこで」「どのような場面」であるかを理解させ、服装、言葉遣い、態度等適切に使い分け周囲に対する配慮ができるように指導する。 イ 交通安全 ・新1年生対象に外部から講師を招き実演形式の「交通安全指導」を実施する。自転車マナー順守の注意喚起を行い自転車事故の被害者・加害者にならないよう計画的な指導を行う。 ア 人権教育学習の充実 ・外部講師等を招き人権 HR を行い、より身近な問題であることに気づかせ意識させる。 イ 情報モラルの育成 ・全学年 HR 等 SNS 等での情報発信をする際に必要な情報モラルについて指導する。 ・1年「情報」の授業をはじめ、定期的に「人によって受け止め方の違い」や「多様な価値観」等に気づかせ情報社会における望ましい態度の育成を図る。 ウ 教職員対象の救急講習会の全員参加 ・全教職員が心肺蘇生法を身に付けいつでも実践できるようにする。 ア・新しい生徒会活動による行事の活性化 学校行事を通じて、生徒一人ひとりが自主的に行動するとともに仲間と協働し、自らを律し他人を思いやる気持ち等心の醸成を図る。	ア・学校教育自己診断（生徒）「学校内外で規律を守り、モラルある行動ができている。」肯定的意見 90%以上。【新】 イ・登下校の自転車による事故件数ゼロをめざす。【新】 ア・学校教育自己診断（生徒）「個の違いを認めあう人権を尊重する態度を身に付けるように取り組んでいる」肯定的意見 90%以上【新】 イ・学校教育自己診断（生徒）情報モラルの項目「インターネットを利用するうえでの危険性（有害サイトやインナーネット上でのやり取りの危険性）、正しい使い方について理解し、日頃から気を付けている」肯定的意見 90%以上。【新】 ウ・教職員の救急講習会及びエピペン講習会参加 100%【新】 ・アレルギーによる事故件数ゼロ【新】 ア・学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育祭等の生徒会行事に積極的に取り組んでいる。」90%以上を維持 [96.1%]	
3 学校力の向上	(1) 学校教育活動の積極的かつ効果的な情報発信による広報戦略の構築 (2) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る (3) 働き方改革の推進	ア・各分掌活動毎に HP 等に必ず掲載する事を分掌長が責任をもって活動の見える化を図る。 イ・教職員全員による学校説明会を実施。教職経験の少ない教職員等を積極的に学校運営に参画させる。 ア・あらゆる機会を活用し、教職員に求められる基礎・基本的素養である人権意識を高め、人権問題を正しく理解するとともに差別を許さない姿勢を身に付ける。 ・研修等を通じて、いじめ、ヤングケアラー、合理的配慮等を正しく理解するとともに適切に支援する。 イ・綱紀保持の遵守等、教育公務員としての自覚と責任が一層高まるように取り組む。 ・教職員一人ひとりが個人情報を取り扱う者として責任の重さを改めて強く意識するよう取り組む。 ・部活動等適正な会計処理の徹底を図る。 ア・教職員の時間外在校時間の縮減を図る。	ア 各学年及び分掌・委員会等による行事後に HP 等の 100%のアップ率が図られたか【新】 イ 教職経験の少ない教職員（新規採用後 10 年以下）による学校説明会のプレゼンテーションを積極的におこなえたか【新】 ア・学校教育自己診断（教員）「生徒に人権を育む教育をおこなっている」肯定的意見 80%以上 [71.9%] イ・全教職員対象に令和 5 年 12 月改訂の「個人情報の適正管理のために」にあるセルフチェックシートを用いて自己点検を学期に 1 回行い、適正に行われているか確認する。【新】 ・学期に 1 回管理職が聞き取りを行い顧問等が極力現金を扱わないことを確認する。【新】 ・年間の時間外在校時間 720 時間を超える教職員をゼロにする。	